令和5年度〔 自己評価報告書 〕

学校番号	学 校 名	校 長 名
48	川崎市立大戸小学校	滝澤　純子

学 校 教 育 目 標	今年度の重点目標
元気いっぱい　やる気いっぱい　心に花いっぱいの　大戸の子 ＜めざす子ども像＞ がんばれる子　　進んで学ぶ子　　なかよくできる子	No Child Left Behind（誰ひとり置き去りにしない。かけがえのない全員） ・互いの思いを大切にした「やりとり」（聞く・話す・話合い・挨拶）を意識した教育活動の展開 ・自分で判断し、互いを認め合い受容と共感を大切にし合う「かかわり」の充実（人権尊重・特別支援） ・児童自身が成長の手応えを感じ取るキャリア在り方生き方教育（自分をつくる・みんな一緒に生きている・わたしたちのまち川崎）の推進

	評 価 項 目	具 体 的 な 取 組	成 果 と 課 題	具 体 的 な 改 善 策
1	育てたい資質・能力の定着を意識した、教育活動の展開	教育目標、経営方針を見直し、全教職員で確認して年間の運営計画を立てた。一つ一つの教育活動の目的を育てたい資質・能力レベルで明確にし計画的に展開した。	めざす子ども像を具現化する形で各学年、個別学習室の年間指導目標を練り、その実現に向けて取組を進めた。指導と評価の一体化を進め、ねらい、活動、評価規準の検討を重ねたが、改善の必要がある。	来年度も、学校教育目標・学校経営計画を基にめざす子どもの姿を実現するために、各行事の目標を明確にし、各学年や校内分掌の各指導部等で、次年度の目標を立てていくようにする。評価計画をさらに充実させ
2	授業改善と、個に応じたきめ細やかな学習支援	国語科校内研究、経年者校内研修を校内で公開、共有し、全教科の授業改善につなげた。 運営委員会で、児童の個別の状況について確認し、対応を検討した。	国語科の授業研究を進めることにより、他の教科においても考えを深めたり広めたりする言語活動が展開されるようになった。学校評価アンケートでは、「授業はどの教科も分かる」に対して8割の児童が肯定的な回答をしたが、全児童にとってわかりやすい授業の実現に向け	児童の学習状況の把握に努め、TT、専科制を活用するとともに、個別の学習支援を別室で実施する等、児童の困り感に寄り添う対応を実践する。教職員の授業研究の機会や研修を設定し、授業力の向上を図り、児童が主体的に学習に取り組む授業を目指す。
3	校内研究の推進	「主体的に考え、共に学び合う子をめざして～つなぐ、考えを広げ・深める　国語科の授業づくりを通して～」をテーマに、年間7回の全教員による授業研究・研究協議、それに関わる学年先行授業、指導案検討を行った。講師の講評をもとに、授業改善につなげた。	授業に至るまでの研究を重ねる中で、教材研究や授業改善の成果があり、「考えを広め、深める」児童の姿が見え、児童、職員共に充実した研究になった。学校評価アンケートでも、「つなげて考えを深めている」と回答した児童が80％となった。教員の意識は90％と高いが、	今年度の成果を踏まえ、「考えを広め、深める」資質・能力の育成を継続して研究を進めていく。どの教科・領域にも必要な汎用的能力であるため、今後も探究的な学びを充実させ、学力の向上につなげる。
4	特別の教科道徳、総合的な学習の時間	道徳では、年間計画を精査し児童の実態に合わせた指導計画を作成し、日々の教育活動の中でも児童の変容が見られた。生活科・総合的な学習の時間では探究的な学びの実現に向けて協働的な学習活動を行った。	道徳については重点目標を明確にし、指導目標や内容の再確認、指導と評価の一体化を進めることができた。生活科・総合的な学習の時間では、地域の教材を活かしたカリキュラムマネジメントを作成・実践したが、さらに探究的な活動にするための工夫や改善の余地が	道徳教育の指導の充実が、落ち着いた学校生活や規範意識の高まりにつながった。来年度も心を育む実践を継続する。総合的な学習の時間では、探究的な学びが連続するカリキュラムを作成し、子どもが川崎市制100周年と大戸の地域に愛着をもち、誇りをもてる学習活
5	ICT環境の整備とGIGAスクールの推進	効果的なGIGA端末の活用について、校外授業研究会参加、校内研修等を通して共有するとともに、ステップ3への課題について確認した。	委員会活動や学級活動でGIGA端末の活用を進めるため、GIGA部会が中心となり職員全体の活用を推進し、各学年の授業や係活動等でも活用が見られた。授業の中での個別最適な学びについてはまだ課題が残る	子どもたちにはGIGA端末使用のルールが定着した。各教科内での効果的な活用について、教職員間で情報共有を充実させる。個別最適な学びの充実については、GIGA部会が中心となり、研修や推進を行う。
6	音楽の日常化	今月の歌の設定、朝会での手話付き校歌の継続、昼・下校時の校内放送、行事への取組の自主的練習等により推進した。	全学年で外部講師を依頼し、豊かな音楽活動につなげた。音楽委員会の活動や6年生卒業記念演奏等、常時活動から行事まで音楽を身近に感じられた。手話付き校歌は児童も「大戸小学校の自慢したいところ」に挙	手話付き校歌は、今後も大戸小学校の伝統として継続し、歌声と共に豊かに表現できるようにしていく。音楽委員会を中心に、音楽集会も参集で行ったり、全学年で外部講師を依頼して学んだり、豊かな音楽的活動につ
7	健康・安全への意識向上と基礎体力の向上	安全に校庭でのびのび体を動かせるよう、校庭使用割り振り、放課後校庭開放を行い、体力向上を図った。避難訓練では、自分の命は自分で守るための判断力を高めるよう意識づけた訓練を行った。	日頃より安全指導を行ったが、今後も計画的な安全指導を継続する。避難訓練では、休み時間の避難を4年ぶりに実施した。これまでの訓練が身に付き、安全に避難することができた。	大戸分教室増築工事によるプール取り壊しによる民間のプール活用のための試行を計画的に行い、問題点を把握した。来年度実施に向けて、計画の素案が完成した。来年度は全体的な教育活動を見直し、安全に実
8	児童理解に基づく児童指導の推進	個々の事案について児童の思いを聞き取り、丁寧な指導をすると共に、児童指導・支援部会を中心に定例会議を毎月実施し、経過確認と対応検討を行った。	児童指導・支援部会で早期対応・早期解決に向けて児童の安心安全な学校生活の実現に向けて検討した。人権尊重、共生＊共育を含む支援の充実については、職員研修を行い人権感覚を高めるとともに、SOS受信発信の研修も行った。児童の心に寄り添う姿勢をより	不適応傾向の児童に対して、今できていることを無理なく継続することから始め、それぞれの実態に応じた支援をしていく。不登校傾向の児童には長期休業前相談会を開き、見通しをもって安心して学習に取り組める支援を行った。

9	支援教育体制の確立	支援教育コーディネーターを窓口として、個々の児童の特性を踏まえ、保護者、他機関と連携してよりよい支援策を講じた。	状況に応じてTTでの支援、サポーター配置による支援、別室での個別指導等を実施した。個別学習室への逆交流学習も活用し、落ち着いた学校生活につなげることができた。通常級においても各担任が一人一人の児童の特性を見取り、ニーズに応じた支援が行えるようにしていく必要がある。	担任の見取りの力を高め適切な支援を進められるようにするとともに、担任だけの対応にならないよう、学年教員、支援教育コーディネーターが、支援の必要な状況を把握できるような体制を次年度も継続する。個別学習室在籍かに限らず、必要に応じて個別指導計画を作成する。
10	体系的な生活目標の設定と丁寧な指導	毎月の生活目標を朝会で伝達するとともに、クラス目標や個人目標等を考え、児童が自分事として目標実現に取り組める取組を行った。	生活目標の伝達では、児童が呼びかけたり、具体物を示したり、参集型の朝会でなくても全校で共有することができていた。目標は各学級で話し合われていたが、振り返りが実施されていないこともあった。	生活目標を投げ掛けるだけでなく、その実現状況について、児童自身が検証し、評価して、次の課題の更新がなされるようなサイクルを構築していく。
11	基本的生活習慣の確立	「大戸小学校よい子のきまり」を年度当初に示し、繰り返し適時適正な指導を行った。学校生活のルールについて、なぜその約束があるのか守る必要があるのかを児童が理解する指導w大切にした。	学校評価アンケートでは、約90％の児童が「大戸小学校よい子のきまり」を守っている、だいたい守っていると答えている。どの学級も落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送っていた。登下校の歩行では、保護者や地域の方からご指摘をいただき、その都度指導を行った。	日頃より登下校時の交通ルール遵守を指導した。今後も登校時パトロールや下校指導で直接児童に声をかけ、継続して呼びかけていく。
12	教育相談の充実	児童に学校生活アンケートを行い、いじめの早期発見、未然防止に努めるとともに、必要に応じて個別の面談を実施した。保護者には、担任以外にも支援教育コーディネーターや学年主任、巡回スクールカウンセラー等の相談窓口があることを広報し、教育相談につなげた。	児童間の関係性は概ね良好に保たれている。学校評価アンケートにおいても、「困ったときに相談したり安心して話したりできる先生や友達がいる」に対して、多くの児童が「そう思う」と回答した。スクールカウンセラーも保護者に活用され軌道に乗っている。外部機関との連携も適切に進めることができた。	児童の状況について、担任だけでなく、学年教職員、支援教育コーディネーター、養護教諭等様々な立場から見取るとともに、小さなサインを見逃さずに情報共有し、児童が安心して相談できるよう関係性を築く。児童、保護者の相談のいずれも、必要に応じてスクールカウンセラーや外部機関の案内を行い、相談につなげる。
13	主体的な児童活動の推進	児童運営委員会、各種委員会活動、クラブ活動、各種行事実行委員等、つけたい力を念頭におき、児童が話し合い、計画し、工夫して実行することができるよう、計画的に指導した。	コロナが5類になり、参集型全校集会や全校行事が復活した。代表委員会を中心に運動会を盛り上げ運営した児童会の活動が全校児童に印象深く残った。各委員会も参集方式やGIGA端末を活用したオンライン方式など工夫が見られた。	参集型、オンライン型のよさを生かし、効果的で効率のよい全校児童の活動が展開された。今後も目的に応じて開催方式を選択し、GIGA端末の有効利用（連絡や意見集約、アンケート等）を様々な場面で活用する。
14	学級活動における見通しと振り返り	学級活動の目標を達成するために、目的を明確に示し、活動への意欲と工夫を促した。取組に対して振り返りを設定し、努力を認めるようにした。	児童のアンケート集計において、クラスの係や当番、委員会活動や実行委員会など自分の役割に責任をもち、意欲的に取り組めているという回答が90％を超えている。学級会活動が、一層活性化するとよい。	学級活動に関する学年別年間指導計画を部会が中心となって年度当初に再検討する。各学年の発達段階に応じ、バランスよく活動内容を配置し、育てたい姿を達成するために計画的に進める。
15	交流活動からの学びの推進	1年生と2年生、1年生と6年生、3年生と分教室、支援級と交流級、園児と5年生等、目的に応じて適切な交流活動を推進した。	学校評価アンケートにおいて、「大戸小学校の自慢したいよいところはたんぽぽさん（分教室）が一緒にいるところ」と多くの児童が挙げるなど、多様性を受け入れ、広い視野をもつことに有効であった。	教員が交流する双方の状況を把握した上で交流活動のイメージを明確にもち、丁寧に準備をして臨むことで、双方の児童の達成感につなげる。
16	地域の教育資源を活用した体験的学習の充実	1年昔遊び体験・パンジー栽培、2年地域巡り、3年パンジー農家・たんぽぽ交流、4年防災班避難所運営会議、5年保護者・園児、6年地域の人々（菊・キャリア）、個別学習室公園清掃、委員会パンジー栽培等、多様な教育資源を活用し、体験的学習を進めた。	活動に対して達成感・充実感をもち、地域への愛着や誇りに思う姿が見られた。ただ、恵まれた地域素材を十分に活用できたとは言えない。また、活動を整理分析し、地域にまとめ発信する活動が十分に行えなかった。	社会科、生活科、総合的な学習の時間等、それぞれの学習単元の中に適切に位置付け、体験的に学習を進められるようにする。地域の方々にも、学習の趣旨を詳しくお伝えし、カリキュラムマネジメントに取り組む。
17	教育設備、学習環境の整備	照明LED化、体育館屋根補修、給食室搬出入用門扉補修、植栽の管理、各ホールワックス塗等、安心安全にかかわる校舎設備、備品の点検修繕を進めた。	植栽の植え替え、整備がさらに進み、学校施設の安全面がより進んだ。共有部分の整備、清掃、破損物品の選別、廃棄を進め、スペースの有効活用が進んだ。廊下階段等の清掃に改善が見られた。トイレ、教材室等	分教室解体工事が夏以降に行われた。今後分教室増築・理科室前トイレ改修工事等が始まるため、工事車両等とスペースを分離し、校舎・校庭の安全や登下校の際の安全を確保して整備を進める。

学 校 関 係 者 の評 価	学校運営のまとめ
・学校教育推進会議が4年ぶりに参集型で開催され、大戸まつり、運動会、卒業式等の学校行事も町内会、地域協力者の方々に公開した。全校行事が復活したことに喜びと感謝の言葉をいただいた。 ・登下校の様子については、見守りをしてくださる地域の方々から、挨拶のできる児童も多く好ましいが、横に広がって歩くなど心配な様子も見られるとご指摘をいただいた。 ・6年生の総合的学習の時間で「大戸のまち」の魅力を探究する際にご協力いただいた「菊花会」の方々から、長期にわたる菊栽培の取組と6年生児童	5月にコロナが5類となり、学習活動や行事等が一気に参集型へと戻り、活気のある教育活動を充実させることができた。地域や保護者の参観や授業への協力が実現し、来校の機会が多くなり相互理解が深まった。秋から冬にかけての感染拡大があり、学年行事の見直しは多少あったが大きな拡大には至らなかった。児童の学校生活や学習への適応で課題が生じた場合は、特性を踏まえた個別の支援を行い、複数の目で見守る体制をとり、教育活動を展開することができた。児童が一日の大半を過ごす授業時間の充実に向けて、校内研究を取り掛かりとしながらも教育課程全般の整備を次年度当初改めて行い、授業力の向上、指導と評価の一体化に向けて、学習指導に関する質の向上を推進する形に組織を再編成していく必要がある。保護者アンケートでは、学校公開の機会は適切に設定されているとの評価をいただいた。人権教育についての取組が「わkらない」と回答した保護者が20％近くいたことを踏まえ、学校報告会で詳しく報告した。来年度は、学校だより等